

さりげない見守りとやさしい声がけを ～認知症の人への接し方～

- | | |
|----------------------------|------------------|
| 1. 安心感を与える | 5. 教えようとしな |
| 2. 普通の人と同じように接して、人間として尊重する | 6. 訴えを頭ごなしに否定しない |
| 3. プライドを傷つけない | 7. 短く簡潔な言い方をする |
| 4. 失敗を責めない | |

よい接し方の3つの秘訣

1. 驚かせない…後ろからの声かけは驚いて混乱してしまいます。
2. 急がせない…ゆっくりと考えたり、ゆっくりと行動するのを待ってあげます。
3. 自尊心を傷つけない…命令口調の相手に不快に感じやすくなります。

～ 認知症について知識を深めたい ～

「認知症サポーター養成講座」

認知症について正しく理解し、地域でのさりげない見守りとやさしい声掛けをして下さる応援者（認知症サポーター）を増やす取り組みをしています。認知症サポーター養成講座（90分程度）を受講すると、認知症サポーターになります。

学校やお友達同士、町内会、子ども会などで開催してみませんか。（少人数でも受講可能です。）

その他、認知症事業などの詳細は
塩竈市ホームページをご覧ください。



市ホームページ
「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」

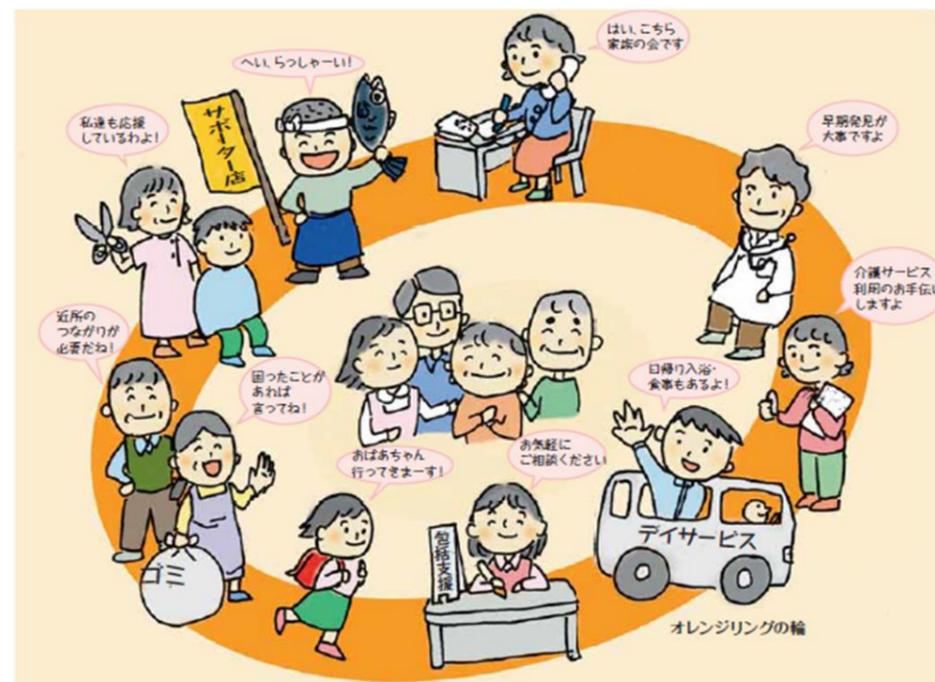
高齢者福祉のお問い合わせ・ご相談は
塩竈市高齢福祉課（塩竈市本町 1-1 壱番館庁舎 1 階）
または、各地域包括支援センターまで（別紙参照）

TEL 022-364-1204

認知症になっても自分らしく いきいきと暮らせるまち塩竈

～認知症の人が安心して暮らすことができるためにも、地域での見守りが重要です～

様々な原因でおこる認知症を「完治」させる薬はまだありませんが、適切な医療やケア、周囲の理解で「病気とうまくつきあう」ことが可能です。認知症になっても、だれもが笑顔で過ごせるまちにしていきたいと思います。



「ロバ隊長」は認知症サポーターキャラバンのマスコットです。ロバのように急がず、しかし一歩一歩着実に、「認知症になってもいきいきと暮らせるまちづくり」が進んでいきます。



認知症サポーターキャラバンマスコット「ロバ隊長」

認知症のことや接し方について知りましょう

塩竈市

認知症って何だろう？

認知症の対応を知ろう！

～認知症クイズに挑戦！右のマンガを読んで、あなたならどのように対応しますか？～

1. おばあちゃんの物忘れ①



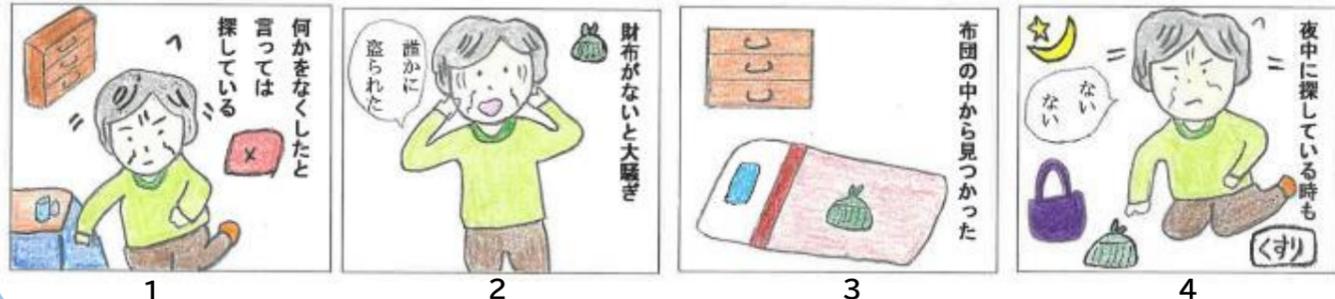
Q1

- ① 「おばあちゃんが自分で買ったんでしょ！」と注意する。
- ② 誰かが勝手に持ってきたに違いないと思い、おばあちゃんと一緒に犯人探しをする。
- ③ 「いっぱいあるね。どうしようね」と一緒に考える。

A1

- ③ 家にあるものを覚えていられなかったり、買い物に行ったという記憶自体なくなってしまうのかもしれませんが。責めたりせずに気持ちを受け止めて、買い物メモと一緒に作る、一緒に買い物に行くなどちょっとした手助けをしてみましょう。

2. おばあちゃんの物忘れ②



Q2

- ① 「そんなわけないよ！」と注意する。
- ② 「財布がないだね。一緒に探してみよう」と誘い、一緒に探す。
- ③ 「私が探してあげる！」と言い、自分だけで探して見つけてあげる。

A2

- ② 「ものとり妄想」と言い、人に頼らず、自立して生きていきたいという気持ちから、自分が忘れるわけなどない(忘れたこと自体が受け入れられない)という思いが現れます。病気がそうさせているのだと理解した上で、否定せずにじっくり話を聞いてみましょう。また、一緒に探す手助けをして、自分で見つけると安心して納得するかもしれません。責めたり、否定すると、嫌な気持ちや悲しい気持ちになります。

3. おばあちゃん日付を忘れちゃった



Q3

- ① 「それさっきも聞いたよ！どうして同じことばかり聞くの？」と注意したり、笑ったりする。
- ② 何も言わずに無視する。
- ③ 「6日だよ」とおばあちゃんが納得するまで優しく教える。

A3

- ③ 認知症は物忘れをする病気なので、今日の曜日や明日の予定などの同じ質問を何度もすることがあります。これは、忘れては心配だという気持ちがあるためくり返し聞いてくるのです。この時に、無視する、怒る、笑うなどといった対応をしてしまうと認知症の人が嫌な気持ちや悲しい気持ちになります。優しく丁寧に繰り返し教えたり、話し相手になりましょう。

4. おばあちゃん徘徊しちゃった



Q4

- ① 「大丈夫ですか？」と落ち着いて優しく声をかける。
- ② 知らないおばあちゃんなので目を合わせないようにして避ける。
- ③ 後ろから大きな声で話しかける。

A4

- ① 認知症の人は、家から外に出て自分にとって居心地の良い場所を探して歩き、道に迷って自宅に帰ることができなくなることがあります。複数で取り囲むと恐怖心を感じやすいのでできるだけ一人で落ち着いて声をかけましょう。後ろから突然話しかけると驚いてしまい、場合によっては転んでしまうこともあります。もし、「声をかけられない」「不安だな」「何かおかしいな」と思ったら、交番や近くのお店の人に知らせましょう。